

## 第 2 回名張市総合計画審議会議事概要

日時：平成 15 年 11 月 10 日（月）午後 1 時 30 分～午後 4 時 45 分

場所：市役所大会議室

委員出欠状況：欠席委員なし

市・事務局：企画財政部 家里部長、総合企画室 山口室長、高嶋主査、福田、

### 議事

#### 1. 報告・説明事項

##### (1) 第 1 回審議会議事概要について

###### (事務局)

- ・ 資料 1 に基づき、第 1 回審議会議事概要についての説明を行う。

##### (2) 新しい名張市総合計画基本構想（原案）について

###### (事務局)

- ・ 資料 2 に基づき、地区説明会の概要報告を行う。
- ・ 資料 3 に基づき、パブリックコメント意見募集結果の報告を行う。
- ・ 資料 4 に基づき、素案から原案への主な修正点についての説明を行う。
- ・ 資料 5 に基づき、現行計画と新計画との比較（主な変更点）についての説明を行う。
- ・ 資料 6 に基づき、現行計画の施策達成状況についての説明を行う。

###### (会長)

- ・ 資料 1 から資料 6 まで一括して説明いただいたが、資料 5 と資料 6 について前回の議論の中で資料要求があり、補足されたもの。このような資料でよいか、また今回議論するうえでのポイントとなるようなものがあれば、お願いします。

###### (委員)

- ・ 現行計画の基本理念は主に人間という視点を取り上げられているが、新計画では「人と自然の共生」といった自然の保全、良好な自然が保たれることが人にとってもよい、健康的にも精神的にもよいという視点が出てきたことは評価できる。
- ・ 戦略については、新計画のリーディングプランは少し抽象的で、現行計画の方がより詳しく具体的に書かれているような気がする。
- ・ 前回意見を申し上げたが、比較表の中に防災についての比較がない。
- ・ 新世紀創造プラン施策目標については、苦労されたと思うが、このように具体的な数値をあげて示していただくとわかりやすい。中身について疑問があれば次回質問させていただく。

(会長)

- ・ **資料5**については、現行の計画はある意味で従来型の延長で、「まちをつくる」「ものをつくる」という方向だったのが、これからの計画は「そこで展開される暮らし」を中心に考えていこうというもの。
- ・ 行政としてやるべき最低限の水準がクリアされていれば、あとはプラスアルファ、どういう特性、個性を出していくかということに絞っていける。**資料6**はシビルミニマム、基本的に生活していくうえでの基盤が整っているかどうかを確認するためのものでもある。ものによっては基本的なインフラが不足しているものもあるが、全体的にはかなりのものが整備されてきたと読めるのではないか。そうすると今回の計画の基本スタンスは、基本的条件が整っていない段階でその水準を多方面で上げていくという従来のまちづくりから、一定の基盤が整備できたうえで、そこで暮らす人の生活をいかに充実したものにするかという視点に立ち、基礎的物物理的条件だけでなく、人の生活の質を問題にしたいというスタンスだと理解できる。これについては議論の中でもう一度振り返りたいと思う。
- ・ **資料2**地区説明会、**資料3**パブリックコメントを経て、素案から**資料4**で原案というかたちになっている。本質的に変わったというよりは、内容の充実、表現がわかりやすくなっているという説明。
- ・ パブリックコメントについてははていねいな対応がされ、ホームページでも公開されると思うが、地区説明会の対応は？

(事務局)

- ・ 基本構想についての説明会でしたが、どちらかというとも基本計画、実施計画にかかわるご意見が多く、基本構想のどこをどう修正すればよいかというご意見はほとんどありませんでしたが、どこの説明会でも「できるだけわかりやすく」というご意見をいただいたので、原案では重点課題をあえて書かせていただいたり、それぞれ施策の中で展開方向を書かせていただいたり、読んでわかりやすいように修正、反映させていただきました。また、ご意見を受けて、表現、言い回しなどを修正した部分もあります。

(会長)

- ・ 原案で二重線はパブリックコメントに対応、シングルラインはそれ以外に対応しているという説明だったが、説明会での意見はシングルラインの部分に含まれていて、この原案はパブリックコメントと説明会の両方を反映したものと理解してよいのか？

(事務局)

- ・ はい。

## 2. 審議事項

### (1) 新しい名張市総合計画基本構想(原案)について

#### (会長)

- ・ 原案を基に審議に入りたいが、今回は 18 ページ土地利用構想までの部分で、内容を深める議論をフリーディスカッションで進めたい。
- ・ まず 9 ページまでについて議論いただきたい。内容的には 9 ページに重点課題として項目が起こされており、名張市を取巻く条件変化が書かれている。第 3 節まちづくりの課題が、名張市を取巻くまちづくりの課題を議論し共通の認識にしようという前回の議論の延長線上になると思うので、9 ページまでの部分についてご意見をいただきたい。
- ・ 7 ページ基本的課題と 9 ページ重点課題がどう対応するのか事務局から説明いただきたい。

#### (事務局)

- ・ まず、なぜ重点課題をあえて入れたかということ、今何が本当に課題なのかということをもっと明確にしておく必要があるというご意見もございましたので、重点課題としてまとめました。
- ・ 「1.豊富な人材の活用と生きがいのある暮らしの創造」については、すべてにかかってくるわけですが、どちらかということ(1)質の高い暮らしの創造、(4)少子・高齢化への対応、(7)住民主体のまちづくり、関連して(5)若者の定住と新しい市民を迎えるまちづくり。  
「2.名張ならではの潤いのある暮らしの創造」は、(2)地域個性を生かしたまちづくり、(3)自然と調和する潤いのある生活環境の形成、(5)。  
「3.自治体間競争を生き抜く戦略的な地域経営」は(4)、(8)新しい時代の行政運営。

#### (会長)

- ・ かつてのベッドタウンは若者がたくさんいたが、急激に高齢化が進み人口が減少していき、成り行きにまかせると高齢化した住宅地になってしまう。今までに築かれた良好な住環境、緑などの地域資源を活かし、生きがいのある暮らしをつくっていかうというのが重点課題。今いる人が幸せでなければ、新しい需要もないだろう、その暮らしを実現するために舞台となるものをつくっていかうというのが重点課題の 2 で、成長期のような豊かな財源がないため、戦略的な経営の視点を持っていかなければならない。7 ページ(1)から(8)までを戦略的にすると 9 ページ 1 から 3 になるということだと思う。
- ・ 9 ページ「あれかこれか」の選択というのは、話口調で文言としてしっくりしない。「選択と集中」ということになると思うが、「あれかこれか」というと二者択一という感じがする。

(委員)

- ・ 序論を拝見していて計画改定の趣旨からすると、基本指標である人口と財政が当初の計画と大きく異なってきたということが新しく計画を策定する理由であると思う。人口的ストレスについては序論を貫いて数行記載があるが、財政的ストレスについては、6 ページ 4 将来人口のあとに記載があるのかと思ったが、触れられていない。第2節でも財政について触れておくべきでは。
- ・ 会長のおっしゃった「あれかこれか」の文言も気になった。「あれもこれも」ではなく「あれかこれか」というように、「あれもこれも」と対比して使われてはじめて生きる言葉。あえてこういったことを釈明するというのは、今までは伸び行く財政、税収とともにどんどん政策を打ってこられたが、今はそうではなく税収が減っていく中で、「あれもこれも」ではなく「あれかこれか」という選択と集中を図らなければならないということ。やはり財政面についても人口と同様に触れていただければ。

(委員)

- ・ 重点課題というのは、すぐに対応できるものがあげられているべきだと思うが、これは理想を述べているだけのように思える。住民が何を望んでいるかという、やはり経済面、安全、健康ということだと思う。財政非常事態宣言が出されたこともあり住民は財政面に関心を持っている。重点課題がそういう面に取り上げられていれば、基本的な課題とともに理想・目標とマッチすると思うが住民のためと言いながらそれが本当にできているか疑問に思う。もう少し、戦略的よりも実質的に感覚的なことをお願いしたい。

(会長)

- ・ 今のご意見は、6 ページの将来人口のあたりに新たに財政の項目を起すか、非常事態宣言をしたという事実を記載するか、どこかで対応していくというご意見。
- ・ 重点課題については、時間軸を入れるとすぐやるべきテーマが必ずしも入っていないのではないかと、例えば防災面が少し弱いというご意見。財政については前半で触れられていれば、重点課題3の地域経営の視点などで生きてくるということだが、防災面についてはどうか？ この辺りは東南海地震の関係で、今年あたり指定地域に入るのでは？

(事務局)

- ・ 要望はしていくつもりですが、入るかどうかはわかりません。

(会長)

- ・ よりよい環境、暮らしをつくろうというのが課題だが、基礎的条件、例えば防災面の基礎的条件を整えるといものがないということについて、ここで対応可能か？

(事務局)

- ・ 議論いただいてそういう結果になれば、そのように対応させていただきます。身近で生活に関係が深いものということになれば、当然安全、それから機能、快適性ということになってくると思います。この重点課題では安全について触れてはいますが、軽く見ているというわけではありません。安全などは当然重要ですが、今までの行政の取り組み等を考えたときに今何が課題か、むしろ時代変化を見ながら、今名張市として何を選択していかなければならないかという視点で課題をあげると、こういったものになるのではないかという思いがあり、このようにまとめました。そういったことも踏まえながら議論いただければと思います。

(委員)

- ・ 住民と行政の間に温度差があるのを感じる。住民にとってはやはり安全が第一であり、そういうものが重点課題だと思っていたので発言させていただいた。

(会長)

- ・ 次回も議論し、そのときに項目を起こすかどうか決めたい。

(委員)

- ・ 防災に関連して、これだけ多くのボランティアのかたがおられるのに災害時のネットワークがない。いざというときに給食ボランティアなどを引っ張り出せるようなネットワークをつくっていただきたい。
- ・ 高齢者が安心できるような内容を入れていただきたい。

(会長)

- ・ 9ページでは優先順位として何から取り組むかということが書かれていて、46ページに行政が横断的に取り組む問題として、健康長寿社会の創造、安心・安全社会の創造として項目があがっている。内容については次回議論したいと思う。

(委員)

- ・ 防災については、行政がやるべき部分と地域づくり協議会やボランティアなど地域のネットワークでやるべき部分があると思う。身近な問題として行政のフォローを受けながら自分たちで自分たちの危機管理をする、自分たちの命を守ろうということが少ないと思うので、あえて防災面の項目を入れるのであれば、そういったことを基本的な課題、重点課題に入れればよいのでは。

(会長)

- ・ 行政まかせのまちづくりの時代から、市民セクターが担うまちづくりに着目していこうということになると思う。

(委員)

- ・ 人口、財政などの外的要因だけでなく、住民自らがすべきことを計画に入れるために改定するのだというようなことを新しい計画に入れればよいのでは。

(委員)

- ・ 重点課題1の「豊富な人材の活用」というのは誰が活用するのか。表現だけの問題かもしれないが、どうしてもこういう視点になりがち。むしろ豊富な人材が活躍する場、仕組みなどを創造していくという考え方のほうが今の目標にあっているのでは。このあたりがこれからの社会づくりの方向に関係してくる。

(会長)

- ・ 例えばどのような表現がよいか。

(委員)

- ・ ひとつは地域内分権を進めていくということ。

(会長)

- ・ それは、その手法ということになりますね。

(委員)

- ・ 手法というか理念でもあると思う。自立協働といわれるが、これまで国、県、市町村を問わず、住民と対峙するかたちを続けてきた。そのままの行政を続けていくのではなく、住民に権限移譲した方がよいものもたくさんある。それなりの予算措置も考えて、住民にまかせていくというプロセスが大切では。

(会長)

- ・ 今のご提案は重点課題の議論だとすると、1に入れるべきか、3に入れるべきか？例えば、広域合併に絡んで旧市町村単位での議論がなされているが、名張は合併しないのでより先進的かもしれない。町内会、自治会、区を単位に権限を充実させようと模索されているわけだが、それをもっと充実させてはというご提案だと思う。これは豊富な人材の活用という視点で入れるべきか、地域経営ということになるのか。

(委員)

- ・ どちらにも入る。

(委員)

- ・ 自治体間競争を生き抜くということになれば、名張市独自の発想をしていかなければならない。少子高齢化の対応について、この文面からはあまり読み取れない。名張は福祉の理想郷として、しっかりしたプランを持っていると明示していく方がよいのでは。

(会長)

- ・ 7ページ4に項目があがっており、文言としては重点課題3の一行目に入っている。また、次回以降の議論になるが、38ページに政策目標と体系が示されている。これをすべて行えば人口増は難しいが、成り行きにまかせるよりは少子高齢化が食い止められるということだと思う。少子高齢化についての受け止め方が少し弱いというご意見について何かご意見があれば……。

(委員)

- ・ 新世紀創造プランの 22 ページ、少子高齢化の中で、子育て、青少年の健全育成ということが盛り込まれている。今回その事項が外されているように思うが、何か意図があるのか？

(事務局)

- ・ 一般的に簡潔に表現するという視点でまとめただけで、意図的に外したというわけではありません。

(委員)

- ・ 現状を汲み取った課題があって施策がある。簡潔な表現にするからといって、外すべきではない。

(会長)

- ・ 過去課題としていたものが検証できていないのに課題から外されているのはいかなものかというご意見ですが、重点課題をもっと列挙すべきかどうかということについてはどうでしょうか。

(委員)

- ・ 重点課題は 20 代、30 代、子どもの視点が欠けていると感じる。例えば 2 では、文化資源の活用ということが書かれているが、文化は継承して初めて地域文化になる。名張には観阿弥創座の地があるが、20 代、30 代の人にそれがどこかと尋ねたら答えられない人がほとんどだと思う。それでは地域文化とはいえない。5 割、6 割の人が答えられて初めて地域文化になりうる。今ある文化を活用するというだけでなく、継承していくという視点が必要。

(会長)

- ・ 9 ページ 2、「守り育てる」「磨き活用する」ということが継承ということになるのかもしれないが、明確に継承ということを入れていくというご意見。

(委員)

- ・ 教育について、特に地域の教育という部分が少ない。若者は出て行くものだが、戻ってくる可能性も含めて、基本的な課題の(9)として、名張独特の教育、文化の項目を起こしては。

(委員)

- ・ 名張で生まれ育った人はある程度ふるさとづくりができていると思うが、開発によって入ってきた第 1 世代、第 2 世代にとってのふるさとづくり、子どもたちにとって引き継いでいくかということがこれから若い世代が定着していくポイントになると思うので、教育をいかに充実していくかということ盛り込んでほしい。

(会長)

- ・ 生涯学習については、文言はないが全部に貫通していると思う。今の議論は青少年世代の教育を特化していこうということなのか、あるいは(2)地域個性を生

かしたまちづくりの活動の中で教育的な対応をしていくということを入れればよいのか？

(委員)

- ・ 重点課題を3項目でまとめるのは無理があると思う。教育、防災の問題などを含め、もう少し増やした方がよいのでは。
- ・ 9ページ1の「時間的、経済的にも余裕のある多くの人々が……」という文言が気になる。年をとったからといって時間的、経済的に余裕があるとは限らない。

(会長)

- ・ たぶん、商工業者がたくさんおられる都市と比べると住宅都市というのは少し性格が違うということで書かれていると理解していたが……。再度事務局で検討いただきたい。

(委員)

- ・ 社会人講師として招かれ、よく小学校、中学校に行くが、子どもたちは非常に落ち着きがない。学校教育は学校教育、家庭のしつけは家庭のしつけと切り離してはうまくいかない。地域がもっと学校に関わっていかないと大変心配な状況で、やはり教育を重点課題として取り上げるべきだと思う。
- ・ 現状として、財政が逼迫しているため教育にしわ寄せが行っているのではないか。学校給食の民間委託ということも課題にあがって問題になっているが、もう少し学校教育を地域に開いていくような、教育委員会の大改革というようなことが急務ではないかと思う。

(副会長)

- ・ 教育は今一番大切な市の視点。社会の方たちも社会教育として学校教育を支援いただきたい。そういったことについて総合計画中で取り組んでいるが、やっとここまで来たという感じ。ここが入り口で、これから皆さんとともに学校教育に取り組んでいきたい。教育は重点課題で、財政面でしわ寄せがくるようなことがあってはならない。

(委員)

- ・ それとともに、よく人材バンクなどに登録してほしいと言われるが、登録するとあちこちから声がかかり仕事にならない。地域の人材に学校教育に参加してもらおうとすると、それなりの待遇を考えるべき。

(委員)

- ・ 教育に関わって、先日報道特集で埼玉県志木市の話題が取り上げられていた。教育委員会はいらないという内容。少し乱暴かもしれないが内容を勉強してみたい。

(委員)

- ・ 学校教育だけでなく、これからは厚生労働省と教育委員会が一緒になって考えて

いけないといけないと思うので、幅を広げていってもらいたい。

(会長)

- ・ 序論について確認

財政面の整理、6 ページに 5 として項目を起こすか、4 に( 1 )将来人口( 2 )行財政として非常事態宣言をしなければならない状況についての文言を追加するか、事務局で考えていただきたい。

基本的な課題のところ、地域力をつける教育、ベッドタウンとして外から迎え入れた人たちの子や孫についてのことが抜けているという議論があったと思うが、そういった教育について、地域特性を生かしたまちづくりという実践場面で文化の継承、しつけなどを入れるか、( 9 )として項目を起こすか、一度事務局で考えていただきたい。

(委員)

- ・ 項目として起こし、教育ということを明記していただいた方がよいと思う。

(委員)

- ・ 重点課題 2 で「名張ならではの潤いある暮らし」と書かれているが、「名張ならではの」ということはすべての前提に置いているということから考えると、1 と 2 は暮らしということになる。どこかでまとめ、今まで出てきた議論の中での重点化を図るという方法もあるのではないかと思う。

(会長)

子育て支援、青少年健全育成というキーワードが抜けている  
少子高齢化の受け止め方が弱い

「あれかこれか」は「あれもこれも」と対比して使わないと意味がわからない

重点課題 1 に地域内分権という視点を入れたほうがよい

- ・ これらのご意見を踏まえ、事務局で検討いただきたい。

(休憩)

(会長)

- ・ 10 ページから 18 ページまでのところで、このまちをどんな都市像に持っていかということが書かれている。文言などについて質問があれば先に説明いただき、そのうえで質的なものを含め、名張の将来像についてこれでいいか議論していきたい。まず、「新しい公」について説明をお願いしたい。

(事務局)

- ・ 公共というのは多様な主体で担われていますが、これまではどちらかというと行政で担っているという感覚が強かったのではないかと思います。電気、ガスなど民間で担っているものもたくさんありますが、行政だけでなく、地域のかたがた

とともに公共というものを担っていこうということで掲げさせていただきました。

(会長)

- ・ 従来の公共は行政の一元管理、これを「大きな公」とすると、最近は「小さな公」とよく言われるが、皆が合意した内容を皆が支えるという概念のようです。それでは内容について議論いただきたい。

(委員)

- ・ 産業振興、財政強化についての柱が1本もない。市民生活については十分考えられているが、それを支える経済、産業、財政についての柱がないので追加すべき。

(会長)

- ・ 具体的には？

(委員)

- ・ 例えば12ページ、まちづくりの基本方向でも産業面については触れられていない。
- ・ 土地利用構想の中でも、産業ゾーンというものがない。ベッドタウンと農業だけでは生きていけない。計画にはそういうものを入れていくべき。

(会長)

- ・ 名張の一番の地場産業といえば、農業と観光では。

(委員)

- ・ むしろ製造業と観光に力を入れるべき。観光に力を入れることで外から人がやって来てお金を落としてくれる、今の時代難しいとは思いますが、製造業を誘致することで雇用が増大する。そういった施策が必要だと思う。

(会長)

- ・ 産業と言う議論についてお願いします。

(委員)

- ・ 名張はこれまで人口ばかりが増え、ベッドタウンとして大きくなったため、建設業が一番大きな産業だったが、いまは土地の造成、住宅の建築も一段落し産業として成り立ちにくくなっている。雇用の安定の面から工業団地も整備してきたが、行き詰まった状態になっている。
- ・ これから観光を産業としていかなければならないと思うが、温泉や自然を見るだけの観光は寂れている。テーマパークも駄目。その中で、文化・歴史と滝などの観光とリンクさせていけば、新しい地場産業も生まれてくると思う。商工会議所でも観光と物産をリンクさせたかたちでの将来ビジョンを考えており、そのあたりが今後の課題となっている。

(委員)

- ・ 産業に関して、30a以上の農地転用について知事の権限が市に委譲されることになる。農地行政、農地を含めた土地行政を考えていかなければならない。農業は

所得が低く後継者が不足し、70歳代が農業の主流で、農地に草が生えても手もつけれない状況。永岡市長の頃に農業公園を試みたが実現できなかった。農業が伴わないために土地が放置されるという状態にあるので、市としてどう対応していくか。

(委員)

- ・ 今まではないものつくっていいこうという、ある意味ないものねだりの部分があったが、これからはあるものを掘り起こし、それを利用したまちづくりをしていかなければならない。あるものを探すと、胸を張って文化と農業と言えると思う。住民と農業のリンクは、オーガニック、地産地消などスローライフにも関わってくる。あるものを掘り起こし、それを生かしたまちづくり、産業づくりをし、収入を確保するところまで踏み込んでほしい。

(会長)

- ・ 産業についての項目を起こすべきという提案について、見る観光から体験する観光、歴史・文化を生かした観光を地場産業にというご提案、また農業について農地転用の審査が権限委譲されてくると、きちんと対応しないと緑の共生ゾーンが下手をすると緑と共生しないゾーンになりかねないというご意見について議論を展開したい。

(委員)

- ・ 農地が余ってくるということになると市民農園というものが考えられる。
- ・ 地産地消と言うことが毎日のように新聞に載っているが、私は地消地産ということを提案している。地元にあるものを消費するというのが地産地消。例えば学校給食の年間計画を立て、地元の農業者に必要な食材を割り当て、責任を持ってつくってもらうというのが、地消地産。名張市としてもそういう考えを取り入れてほしい。

(副会長)

- ・ 小学校の給食は地産地消にさせていただいている。学校と農業者の契約ということになれば、もっと使いよいと思う。

(委員)

- ・ 今後日本の人口が減少していく中で、都市の人口というのはそれほど変わらず、地方の人口が極端に減少していくことになる。日本の食糧自給率は40%を切っており、今後食糧の輸入も難しくなっていくことが予想される。流域消費のシステムを確立しないと淀川水系の上流、下流とも駄目になる。今の物流は遠くで取れたものが都市に運ばれ売られているという無駄が多い。市営農場づくり、若者を中心に人材を確保し、計画的な生産を行い、下流の大都市に安定供給するといった思い切ったことをしないと、この地域の農業はもたないのではないかと。

(会長)

- ・ 興味深いお話だが、近畿圏整備計画といった内容で、名張の計画にどう取り入れていくか。

(委員)

- ・ 農業のことは計画の中にたくさん出ている。出ていないのはいわゆる製造業。実際雇用を一番吸収するのは製造業で、地元働く場がたくさんあった方がよい。
- ・ 県では今、伊賀地域をメディカルバレー、医療産業の集積地にしようという構想がある。それができてくると、薬草園も薬草栽培もできるようになり、雇用も吸収できる。伊賀市ではそういった付加価値の高い新しい産業を持ってくるということを考えている。名張市もこういった産業政策を計画に入れるべき。
- ・ 文化面では主に観阿弥が取り上げられているが、忍者の方が大衆的。忍者といえば上野とされているが、発祥の地は名張。もっと忍者をPRすれば、名張に関心を持つ層が広がると思う。集客産業のこともまちづくりの大きな柱に入れるべき。

(会長)

- ・ 住宅都市のニュービジネスとして、将来大量に抱えることになる高齢者を対象にした健康産業というのはいかがですか？

(委員)

- ・ ひとつの流れとしては園芸福祉。産業ビジネスというと、大きな雇用につながるかどうかはわからないが、これから出てくると思う。

(会長)

- ・ 高齢者への給食サービスなどについては？

(委員)

- ・ 給食サービス、介護支援センターなどは多くの雇用も期待でき、ニーズもある。

(会長)

- ・ ニーズがあるからやらなければならないということはあるが、ビジネスとしてはどうか。

(委員)

- ・ 私はビジネスの専門家ではないが、高齢者が何を望んでいるか、また少子高齢化で税収が減るということを考えると、こういったビジネスは重要で、住民にとってもありがたい。

(委員)

- ・ 市の配食サービスは1週間に3回で一食400円の補助。ボランティアは1食100円の補助でボランティアの運営費に充てている。すべてボランティアの手で行えば安くできるのに、業者に儲けさせていることに矛盾を感じる。今ボランティアは特定の地域に配食しているが、ボランティアを活用することで経費をうかし給

食センターをつくるなど、全地域に配食できるような仕組みをつくってもらいたい。

- ・ 福祉の理想郷づくりということをいっているが、具体的にこういうことをやりたいと思っているということぐらいは載せるべき。

(会長)

- ・ 福祉の理想郷というのは抽象的だが、これに形容詞を付けていくのが我々の役目。こんな福祉の理想郷にしたいということをこれから議論していきたい。

(委員)

- ・ 園芸福祉に指導を加え、つくった野菜などを青空市場で売り、そこで売れ残ったものを給食センターが安く買い取るというような仕組みをつくるべき。

(委員)

- ・ 福祉の理想郷について、福祉は高齢者だけではなくすべての福祉と捉えているがそれでよいか？

(会長)

- ・ そうということだと思う。

(委員)

- ・ 基本的にそうなっていると思う。すべての人にとってのもので、それを一緒につくりあげていく営みという意味だと思う。
- ・ 私は伊勢のおかげ横丁の創設に関ったこともあり、名張に来て一番思うのは、旧来の町場を活性化させるべきだということ。大阪から伊勢まで2時間かかるが、名張は1時間で来られる。大規模な旅館というのではなく工夫して、駅から一番近いこの町場を滞在型にし、これだけの自然環境と文化などが結びついていけば、おもしろい観光になると思う。心のゆとりを持つ場を提供できるという意味で、大きな意味の福祉にもつながるのでは。

(会長)

- ・ 産業については、こんなキーワードが出てきたということをもとに1枚のペーパーにまとめていただき、それを参考にして次回個々に議論したい。
- ・ 生活都市という点で、過不足など問題点があればどうぞ。

(委員)

- ・ 中心市街地の商店街について、デンマークでは価格が高いにもかかわらず、あえて中心市街地で買い物をする人が多い。なぜかと言うと、郊外店でばかり買い物をしていると、中心市街地がなくなり、いずれ車に乗れなくなったときに自分たちが困るから。中心市街地の商店街の問題というのは産業の育成、広域商業の育成のみならず、福祉とも関係してくると思う。その商業の視点が少し抜けているのではないか。

(会長)

- ・ 商業という言い方をするかどうかは別にして、生活圏を形成するという点について、事務局で補足していただきたい。

(事務局)

- ・ 3つの生活都市の記述のなかで、人と自然と文化に触れていますが、そういったことを徹底的に磨いていくことが結果として産業に結び付いていくのではないかと考えます。例えば商業を発展させましょうといっても、郊外型でも何でもよいというものではなく、暮らしやまちづくりとの関係を重視することが大切であると考えます。また、名張の現状を踏まえれば、実際問題として工業団地を造成しても工場を誘致することは極めて困難な状況です。人、自然、文化を特化し磨いて本物にしていくことによって産業の発展にも結び付けられるのではないかと思います。我々が暮らしやすいまちをつくっていくことが経済的な自立、都市の自立にもつながるといふ思いも込めて、こういった将来像を描いています。

(会長)

- ・ 産業が抜けているというわけではなく、ベースにはあるが、むしろ将来の観光産業、生活産業を起すために戦略的にまずやるべきことは、今ある基礎条件を輝くようにすることだというシナリオでこの原案ができているという説明。次回、今日の議論について資料を作成いただき、戦略性を優先させるのか、基礎条件を優先させるのか議論したい。
- ・ 生活都市、土地利用について、特段のご意見がなければ次回継続審議としたい。

(委員)

- ・ 今までの議論と離れるが、基本理念の図式について、行政の「市民起点の市政」というのは当然のことであり、ここであらためて言うのはおかしいのでは。今まで市民起点の行政をやっていなかったことを認めるということにならないか。

(委員)

- ・ まさにそういうことで、「市民起点の市政」ということを行政の方から打ち出しているものであり、それに我々がどう協働して関っていくかというところが課題。

(事務局)

- ・ 行政はこれまでサービスの供給者として、極端に言うと事業そのものが目的化し、つくればよいという傾向にありました。その結果どうなったか、誰が使うのかという成果を考えていかなければならないと思います。

(委員)

- ・ 「あれもこれも」ではなく、「あれかこれか」の選択をする中で、住民との合意形成が必要。協働には触れているが、合意形成については触れていない。できるだけ完全な合意形成を目指すプロセスが行政の今後の重要な課題だと思うので、次回議論したい。

(会長)

- ・ それはぜひ入れていただきたい。成果だけではなくプロセスも重要。

(事務局)

- ・ 今までの経営管理という発想だけではなく、まさにそのプロセスが問われています。公開、参加、説明責任というなかで、合意形成していきたいと考えて、市民起点の市政を掲げています。

(委員)

- ・ パブリックコメントでも意見があったが、「人間尊重」という表現は今まで尊重していなかったのかというような感じがしてどうかと思う。心がふれあうというような表現でもよいのでは。全体的に表現がかたい。
- ・ 園芸福祉について、愛媛県の丹原町では、農協が土地を提供し赤ジソを栽培し、梅干の産地である和歌山県の南部町と生産・購入の交流をして、リタイアした人たちが楽しく農業に取り組んでいる。守りと改善だけでなく、発信していく基本構想でなければ。

(委員)

- ・ 農林業、園芸を生かした新しい2次産業、3次産業を考えていかなければならない。

(会長)

- ・ 最近は1次、2次、3次を含めて6次産業といっているが、そういう産業のご提案。

(委員)

- ・ 介護保険、社会教育の委員もしているが、それらの会議で議論されている内容とリンクしながらも矛盾する部分があると感じる。
- ・ やはり内容が抽象的でわかりにくい。それぞれの項目で、細かい数値目標が決められるのに、なぜここにそれを載せられないのか悶々とするものがある。

(会長)

- ・ 次回は19ページ以降で具体的に何をするのか、そしてもう一度、全体の目標がよかったのか議論をしたい。

(委員)

- ・ 新しい「公」の読み方は「コウ」なのか「オオヤケ」なのか？

(事務局)

- ・ 事務局としては公共の「コウ」と考えていますが、県が後から同じ「新しい公」という言葉を使い、「オオヤケ」と言っています。

(委員)

- ・ 青年会議所では、公園などは行政のものではなく自分たちのものだから自分たちで管理しようという概念がかなり前からあり、「オオヤケ」と読む。どちらにして

も読み方をはっきりさせた方がよいと思う。

(会長)

- ・ 少し勉強し、世の中で定着した話と審議会での議論で最終的に決定したい。

(事務局)

- ・ ご意見いただいた重点課題については整理しますが、もう少し議論いただき、その動向を見据えて重点課題をまとめさせていただければと思います。

(会長)

- ・ 別のペーパーで項目だけ挙げていただいた方がよいかもしれない。

(委員)

- ・ 文章にすると長くなりわかりにくいので、箇条書きにした方がよい。

(2) その他

(会長)

- ・ 次回の審議会は、11月24日の午後とします。